

千 早 赤 阪 村

農業を活かした都市住民との交流の場をめざして

はじめに

千早赤阪村は、大阪府の南東部に位置し、大阪府内最高峰の金剛山や、南北朝時代の武将楠木正成の生誕地としての多くの史跡など、自然と歴史に恵まれた村です。

村の主要産業は農林業で、中山間地域の地形を利用した棚田たなだが室町時代の古くから形成されてきました。

棚田とは、山の斜面や谷間の傾斜地に、階段状に造られている水田のことで、小さいものまで数えれば千枚にも達することから「千枚田」とも言われています。

棚田は、農業生産の場であり、国土保全にも大きな役割を果たしていますが、その他にも優れた自然環境の維持、美しい農村風景の形成、農村文化や伝統の継承、様々な動植物が生息する場など様々な役割を果たしています。

大阪近郊の棚田はそれに加えて、都市住民の心を癒す心のオアシスとしての役割も担っています。

「日本の棚田百選」に認定、そして「下赤阪棚田の会」結成

近年、農業従事者の高齢化や後継者不足の中で、厳しい地形特性を持つ棚田の維持管理が難しく、耕作放棄地の増加が懸念されています。そのような中、平成11年7月に、棚田を保全整備し、将来にわたって棚田の活用を進め、農業や農村に対する住民の理解を深めてもらう目的で農林水産省が実施した「日本の棚田百選」に、本村の「下赤阪の棚田」が選ばれました。

「下赤阪の棚田」には面積7.4ha、250枚の棚田



下赤阪の棚田

があり、42戸の農家が耕作に従事していますが、「日本の棚田百選」に選ばれたことを契機として、棚田保全の機運が高まり、平成11年に地元農家の15人で構成する「下赤阪棚田の会」が結成されました。

棚田の保全活動と都市住民との交流

「下赤阪棚田の会」の結成にあたっては、本村が中心となり大阪府と協力・連携しながら、地元農家への呼びかけ、調整などを行いました。現在、本村が「下赤阪棚田の会」の事務局となり、活動の案内



棚田の保全活動

平成18年度下赤阪棚田保全活動の内容

活動名称	実施日時	活動内容
第1回 棚田保全活動	平成18年5月21日（日）	ファンクラブ有志による草刈作業
第2回 棚田保全活動 ＜収穫祭＞	平成18年6月18日（日）	ジャガイモの収穫祭 さつまいも植付け作業
第3回 棚田保全活動	平成18年7月9日（日）	草刈り・さつまいもネット掛け コスモスの種子蒔き
第1回農作業体験農場耕運	平成18年9月24日（日）	農作業体験農場の耕地整理
第4回 棚田保全活動	平成18年10月8日（日）	草刈り コスモス摘み
第5回 棚田保全活動 ＜収穫祭＞	平成18年10月29日（日）	さつまいも収穫祭 コスモス摘み
第6回 棚田保全活動	平成19年3月18日（日） （予定）	ジャガイモ植付け マルチ掛け

や農作業用具の準備など、農業振興の一環として取り組んでいます。

主な活動内容は、大阪府の棚田ふるさとファンクラブのボランティアとの協働による棚田の維持管理や保全活動の実施、ボランティアとの年5回の草刈作業、休耕田を利用したジャガイモやサツマイモの植付け・収穫などで、活動を通じて交流を図っています。

また、耕作放棄地の増加による棚田全体の景観の悪化を防ぐ目的で、棚田ボランティアを対象として、休耕田を利用した農作業体験を行っています。その運営にあたっては、「下赤阪棚田の会」会員が技術指導や管理を行っています。

さらなる地域の活性化に向けて

水を引き込んだ初夏の棚田、早苗が風にそよぎ夕焼けが水面に映る夏の棚田、黄金色の稲穂が波打つ秋の棚田、冬の雪景色の棚田など四季それぞれの美しい姿を見せる棚田には、多くの人が訪れ、アマチ

ュアカメラマンの格好の被写体になっています。

村ではこのような環境を活用し、地域の良さをアピールするため、棚田周辺に公園、遊歩道などを整備しました。これにより、公園を訪れた人は、棚田だけでなく、大阪平野や大阪湾の壮大な景色を楽しむことができるようになったほか、四季の棚田の変化を楽しみながら遊歩道を歩くことができるようになり、周辺に点在している国史跡指定の「下赤阪城跡」や、楠公誕生地、寄手塚・身方塚など、楠木正成ゆかりの史跡を探訪する姿が多く見られるようになりました。

本村では金剛山への登山客が数多く訪れ、棚田の近くにある農産物直売所は賑わっています。今後は、こういった人達に棚田を訪れてもらい、棚田の魅力とあわせてその価値や役割についても理解してもらうことが大切であると考えています。地元と都市住民との交流を通じて農作物の情報、地域の文化への関心が高まれば、棚田の利活用を促進するだけでなく、地域の活性化につながっていくのではと期待しています。